



TSURUGAKUEN HIROSHIMA SENIOR HIGH SCHOOL JUNIOR HIGH SCHOOL
ATTACHED TO HIROSHIMA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

NEWS

鶴学園広島工業大学・附属中学校
広島高等学校通信

VOL.
137
2007・1月発行

第42回文化祭

テーマ：disfrute (ディスフルーテ)

このテーマは、スペイン語のdisfrutar (楽しむ) の命令形で、共に楽しもうという意味です。全校生徒が協力し、来場される方と共に楽しみながら質の高いものを作りたいという願いを込めました。

パンフレットデザイン：隅田 泰章 (Ⅱ年3組) / テーマ考案：前田 香菜 (3年1組)

心配されていた空も晴れ、第42回文化祭は清々しいスタートをきりました。作る・見る・聞く、全てを楽しもうという想いから始まった今年度の文化祭。たくさんの苦労がありましたが、いつでも仲間に助けられ一緒に進んできました。そして迎えた文化祭はあっという間でしたが、終わった後は心地よい達成感でいっぱいでした。

この文化祭で得たたくさんのことを糧としながら、これからも我が校の文化祭が、よりたくさんの人たちの心に残るものになってほしいです。

高校生徒会文化部長 Ⅱ年2組 山本 奈都美



高校Ⅰ年1組制作の門



大盛況の模擬店



今年度の文化祭では、日頃の授業や行事での学びを深め発表したクラス、団体が多くみられました。一部を紹介します。

高校Ⅱ年3組

ストンプ



打楽器をしたいという声から「ストンプ」に辿り着き始まった総勢39名のステージ。ストンプはヨーロッパで始まったストリートパフォーマンスですが、私達のクラスは棒、鍋蓋、バケツ、ペットボトル、ドラム缶、そして人の体、とあらゆるものを楽器にしてリズムを刻み、自分達の音楽舞台を創造しました。

中学3年3組

創造の授業をヒントにしたロボット製作



本年度より中学校3年生の創造国際の授業でロボット製作を行っています。同じような材料を使うものの、最後の授業で行うロボットコンテストでは、個性溢れる作品が思い思いに操縦されるなど、創意工夫の成果がうかがわれました。文化祭では、一層の工夫と改良を施し、独自のロボットを使って様々な種類のゲームを紹介し、多くのお客さんと楽しい時間を共有しました。

ロボットを製作しているときに、うまく前に進まなかったり、途中の線などが切れたり、ギヤが故障するなど、たくさんの失敗がありました。しかし、そのおかげで様々な改良をして成功できたのだと言えます。今回の文化祭を終えて分かったことは、失敗することにはとても大切な意味があるということです。これからも成功する上での失敗を心に受け止めていこうと思います。

3年3組 田村 健太郎

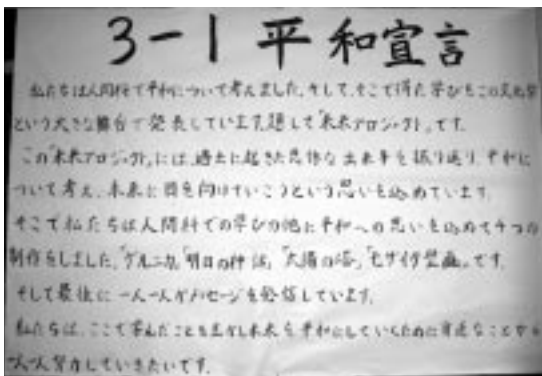
CONTENTS

●第42回文化祭	1・2
●高Ⅱ研修旅行	3
●高Ⅰ社会人講演会	3
●クラスマッチ	4
●各賞受賞	4
●冬読書のすすめ	4
●推薦入試合格速報	5・6
●TOEIC® 960点!	5
●CLUB NEWS	6

文化祭

中学3年1組 平和発信!3-1未来プロジェクト

3-1では人間科での学びを通して、身近なところから一人一人が動き出すことで少しずつ平和を作ることができるという共通意識をもちました。そして、これを文化祭のテーマとし、制作やまとめを通し考えをより深く発表しました。



会場の入り口に掲げた文化祭発表のコンセプト

【3年1組での平和活動】 岡本 嵩大

3年1組は「未来プロジェクト」と題して、平和な未来に向けての作品を制作し展示した。

この制作を進めるための準備期間は、夏休みを挟んだおよそ5ヶ月にも及び、この時間は平和についてたっぷり考えることができた、文化祭を終えた今では思っている。普段、平和に関しての新聞記事や本を読むことは少なかったが、この期間でじっくりと読み、考えることができた。

また、文化祭での展示物を作っている時期に人間科で高橋さんのお話を伺って、小さなことでも立派な平和活動の一つだと知り、いっそう制作への意欲が湧きどんどん進めてゆけたように感じる。

こうして完成した作品を並べた3年1組の教室には、今までの自分たちの思いや努力が詰まっているように見え、とても誇らしかった。今はその跡形もなくなってしまったが、平和活動ができたという充実感と、今までで一番必死に取り組んだこの文化祭は一生忘れることはないと感じている。

■ 中学3年・人間科

6月「わたしのせいじゃない?」 ～共感と責任について考える～



6月の人間科 「わたしのせいじゃない?」でのロールプレイ

10月「平和って何だろう?」 ～平和のプロジェクト作り～



10月の人間科 「平和って何だろう?」
被爆された高橋昭博氏の講演

岡本太郎「明日の神話」「太陽の塔」



明日を切り拓こうとする力を秘めた作品。岡本太郎が込めた思いに共感し、平和への思いを重ねて教室いっぱいの巨大アートを制作した。文化祭発表後、なごさ公園小学校に寄贈し児童や保護者に見ていただいた。

「平和プロジェクト」ノート



人間科での学び、ホームルームでの取り組み、夏休み中に調べたこと、新聞の切り抜き、読書の授業で読んだ平和に関する本についての感想、家族の意見などを各自がまとめて展示した。

折り鶴で作ったモザイク壁画 「原爆ドーム」「原爆の子の像」



毎日クラスで折り鶴を折り、制作した。小さな折り鶴でも集めれば大きな壁画になる。人間科で学んだ、一人の力は小さくても集めれば大きな力になるという考えにも重なった。

ピカソ「ゲルニカ」



ピカソがゲルニカの悲劇を伝え、平和を強く世に訴えた作品。本来はモノトーンだが、カラフルな明るい色を使い、未来への希望を込めて制作した。廊下の壁いっぱいを使った大きな創作となった。

中学2年 研修旅行展示・パサデナ展示

中学2年生の文化祭はNZ交換留学・研修旅行で学んだことを発表する場です。学年でテーマを「温故知新の6つの扉～日本からNZへ～」と決め、クラスを時代別に分けて訪れた場所を紹介しました。お客さんに全クラスの展示を見ていただきたいという思いから、スタンプラリー形式をとり、飛鳥(1組)→奈良(2組)→京都平安(5組)→京都中世(4組)→京都幕末(3組)の5つのスタンプがそろった方に、6つ目の扉であるNZの部屋で自作のしおりをプレゼントしました。多くのお客さんに喜んでいただけたことが何より嬉しかったようです。その後も、「行事で育んだ力を学習につなげよう!」を合い言葉に一層学習に励んでいます。



準備風景(飛鳥時代の衣装を手作りしました)

文化祭では、私たちが頑張ってきた成果が見られたと思った。研修旅行を始め、幕末のことを調べているうちに、最初は幕末にどんな人が活躍してどんな事件が起きたか分からなかったけど、どんどん分かるようになった。中1の時と違って中2はもうテーマが決まっていたけれど、逆に決まっていたことによってまとまりやすくなっていた。中2全体のテーマ「温故知新の6つの扉～日本からNZへ～」も果たし、1組から5組とNZまでうまくつながりが持った。

2年3組 日浦 爽子

中学1年2組 PEACE ROAD



写真展示に説明を加え、現地の様子を明確に伝える努力をしました。

初めての人間の授業で「Ant-Hiroshima」の代表者、渡部朋子さんに講演していただきました。「Ant-Hiroshima」はアジア各地で地震災害や内戦により家族を失った人たちが心に深い傷を負っている人々を支援している団体です。実際の写真や映像を見せていただき、心に強い衝撃を受け、私たちは自分たちで何ができるのか考えました。そこで、今回の文化祭ではテーマを「PEACE ROAD」に決め、カシミール地方で起こった大地震後の現地の様子を調べ、発表しました。

私はカシミール地域で地震があったことも知りませんでしたし、こういう災害は忘れられやすいものだと思います。でも私達は今回の取り組みで人々の生活や状況について学習し、直に触れることができました。展示品に使わせていただいた地方の産品につけた説明もAnt-Hiroshimaの皆さんが最後まで丁寧に教えてくださったお陰で良いものができました。文化祭では多くの人々が興味を持ってくださったようです。これを機に、たくさんの方がカシミールのことを忘れないでいてくれればいいなと思います。

1年2組 中原 由貴

高Ⅱ 研修旅行



沖縄・伊江島ホームステイの旅

日程／10月8日～13日



おみやげ物の貝細工を教わる

沖縄本島中部から少し離れた人口5千人ほどの小さな島、伊江島。そこで民泊4泊たっぷり島の暮らしにひたった旅でした。「ただただひたすら『出会い』のための旅です。行くことで『家族』や『働くこと』や『幸せ』や『平和への個人のかかわり』——そんなものの見方が変わってほしい。」参加者のパンフレット1ページ目にそう書きました。

参加生徒は旅の後、こう書いています。

「人に頼ってもいいんだ。」「『もっと人を信頼しなよ』と教えられたように思った。」

「帰ることのできる場所を得たような安心感。」「人と関わるのって一もんだなー。」

「基地——何人も人が叫んでも届かない悲しみと無力感に憎しみを抱いた。それと逆に島人の暖かさにも触れた。その相反する力の中で自分は成長できた。」



三線を教わる



北海道スキー体験コース

日程／12月23日～28日

年の瀬も押し詰まった12月23日の12時20分、北海道スキー体験コースに参加する生徒、引率教員、添乗員の合計61名を乗せて、ANA791便は広島空港を飛び立ちました。2時間足らずで到着する予定が、千歳空港の滑走路の除雪作業のため、1時間ほど遅れて北海道に到着。すぐにバスでホテルに移動しましたが、北海道の大地は雪が降り積もり一面の銀世界。広島とは全く異なる北海道の様子に驚いていました。

2日目から、ルスツスキー場にてスキー実習を開始。初心者には、最初は慣れないスキーに悪戦苦闘していましたが、みるみるうちにスキーに慣れていき、初日の実習が終わる頃にはかなり上達していました。これまでスキーの経験のあった生徒たちも親切な指導をしてくれるインストラクターのもと、スキーの技術を更に向上させていました。

3日目、4日目は天候に恵まれ、スキー場は快晴。生徒たちは北海道の最高の雪質のスキー場でのスキーを楽しんでいたようでした。5日目はスキー場でのバジテストの後、札幌へ移動。札幌はこの時期の北海道としては珍しく雨でしたが、これもまたいい思い出となりました。

今回の研修旅行で、生徒たちはスキーの技術を向上させるとともに、北の大地で様々な人たちと出会い、生涯忘れ得ぬ貴重な思い出を作ることができたのではないのでしょうか。



高Ⅰ 社会人講演会

去る12月18日、来年度の文理選択を控えた高校Ⅰ年生では、人間科授業の一環として恒例の社会人講演会を実施しました。9つの分科会から希望する2つの分科会を事前に選んで参加しますが、今年も事前準備や当日の進行、事後の記録集作成などのすべてを生徒主体で行いました。自分が選んだ仕事に誇りと愛情を持ち、思いを込めてお話をしてくださる講師の先生方の姿は、将来の進路選択に悩む生徒たちの背中を、そっと押してくださったのではないのでしょうか。



荒川さんの講演の様子



会場企画係が中心となり、全員で飾り付けをしました。

「苦労しても後々笑えるから」という栗屋先生の言葉が印象的だった。今勉強で苦労していることもあるけど、これを乗り越えて、「後々笑える」ようになっていたいと思った。また、一度選んだ道は戻れないけれど、それを充実させるか否かは自分にかかっているのだから、進路選択についても、自分でよく考えて決めた道を信念を持って歩いていきたいと思った。

I年1組 磯根 達也

講師の先生方

荒川 共生	特定非営利活動法人アジアボランティアセンタースタッフ
栗屋 仁美	比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科助教授
加藤 正巳	(株)河合楽器サービスセンター技術課勤務ピアノ調律師
酒井 美奈子	中電病院手術室看護師長
田中 一範	(株)田中倉庫運輸代表取締役
田中 千秋	田中法律事務所弁護士
福田 由美子	広島工業大学工学部建設工学科助教授
藪井 和夫	中国新聞社メディア企画部部长・編集委員
山口 克己	広島県知的所有権センター特許情報活用支援アドバイザー

(敬称略)

クラスマッチ

定期考査が終了し、冬季休業も目前に迫った師走の21日から22日にかけてクラスマッチが実施されました。今回のクラスマッチは天候にも恵まれ、特に2日目はさわやかな快晴でした。

サッカー、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、長縄跳びの各競技が行われましたが、定期考査の終了後ということもあってか、生徒たちもリラックスし明るく元気な声を掛け合い、どの競技も終始、熱のこもったプレーが繰り広げられました。高校のソフトボールとサッカーは、従来の学年ごとのトーナメント方式ではなく、学年の枠をこえたリーグ戦方式で実施されました。教員チームも高校ソフトボールに参加しましたが、各学年間や教員チームとの交流試合は大いに盛り上がっていました。

また、高校Ⅲ年生にとっては今回が最後のクラスマッチでした。良い思い出づくりになったのではないのでしょうか。



2006年度 クラスマッチ結果

学年	ソフトボール			サッカー			バレーボール			ソフトバレーボール			バスケット			長縄跳び							
	高校男子	中学男子		高校男子	中学男子		高校女子	中学女子		高校女子	中学女子		高校女子	中学女子		1年	2年	3年					
1位	【全学年合同】 Ⅲ-5	1年	2年	3年	【全学年合同】 Ⅱ-3	1年	2年	3年	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
		2	2	3		3	3	2	1	3	1	1	5	1	5	1	5	2	4	4	1	2	4

各賞受賞



平田 直之くん(Ⅱ年2組)

「第8回高校生小論文コンクール」優秀賞受賞

今回受賞した平田くんの作品は最優秀賞に次ぐ優秀賞(1名)の受賞であり、作品は読売新聞1月1日号に掲載されました。平田くんは昨年度の文化祭テーマ「鳳翼天翔」の発案者でもあり、言語表現の巧みさが特に目立つ生徒の一人です。今回の受賞が今後への良い励みとなるでしょう。

国語科では本年度より、外部に作品を活発に応募していくという方針でさまざまな取り組みをしています。今回の「小論文コンクール」以外にも様々な募集に応募しており、現在、平田くん以外にも入賞の知らせが届いて来ているところです。



吉田 豊くん(3年1組)

「第3回ひろしま・夢・エネルギー大賞」大賞(市長賞)受賞

中学3年の創造国際の授業で、各自が工夫してオリジナルのロボット製作を行っています。アイデアを出し、試行錯誤しながら学習していきます。その時、いろんな分野のことに好奇心を持ち探求していく姿勢が大切です。その流れの中で、環境やエネルギーなどについてのアイデアを提案していく「第3回ひろしま・夢・エネルギー大賞」に応募しました。吉田君が中学で学んできたことを活かしてアイデアを出し、子ども部門の大賞(市長賞)に選ばれました。今回は一般部門での該当者がいないため、唯一の大賞となります。



堀江 将生くん(Ⅱ年2組)

「全国高等学校文芸コンクールイメージキャラクター募集」優秀賞受賞

「父がこのような関係の仕事をしており、父から勧められて応募しました。この作品は誰にでも書けるというところが特徴です。「文」の文字を擬人化し、文芸への躍動感を表現し、また、「発信する」という意図でアンテナをあしらいました。」



ブッピー



吉本 明未さん(Ⅱ年2組)

「青少年からのメッセージ」2席受賞

高校Ⅱ年の情報の授業では、テーマを決めて、データの収集、活用についての統計的な学習をしています。主として数値、グラフを扱いますが、その根底に何があるのか、何故このような結果になったのかを分析する時、データの背景を探ることが重要になってきます。普段から問題意識を持ち、解決へ向けて考えるきっかけとして、「青少年からのメッセージ」という情報発信の場を利用しています。これは広島市が青少年健全育成に役立てようとする取り組みで、メッセージ集になり、ホームページでも公開されています。今年のテーマは「命」でした。吉本さんも問題意識を持ち、日常生活を送っている一人でした。『言葉の重み』について、情報発信しており、共感する人々が多いことでしょう。吉本さんが2席に選ばれたのは大変喜ばしいことです。

冬読書のすすめ

冬の夜長に読書はいかがですか。今回は社会科の先生方にご紹介いただきます。



『ソフィーの世界』—哲学者からの不思議な手紙— ヨースタイン・ゴルデル著・池田 香代子訳 (NHK出版)

14歳の少女、ソフィーのもとに「あなたはだれ?」という差出人のない手紙が届いてから物語は始まります。思いがけない問いかけに、ソフィーは改めて自分を見つめ直します。驚きと冒険と仕掛けが満載の、素敵な哲学ファンタジーです。「自分」というものの存在を改めて考えさせてくれる一冊です。

瀧口 啓倫先生



『膨張中国—新ナショナリズムと歪んだ成長—』 読売新聞中国取材団著 (中公新書)

驚異的な経済成長をつづける中国。知っているようでよくわからない隣国の姿を、新聞記者たちの取材による「生の声」を通してうかがい知ることができます。地理や現代社会の学習と関係するのはもちろんですが、将来、隣人とのようにつきあったらよいのかということを考える参考にもなるかと思います。

岩見 信也先生



『1秒の世界』 Think the Earth Project 編 (ダイヤモンド社)

1秒間には人は93mlの空気を呼吸し、世界に420万tの雨が降っている…。生命の驚異から宇宙の神秘、環境問題まで、世界の「1秒の変化」が60項目について書かれています。「地球の今」がとてリアルに実感できる本です。

野中 春樹先生



『古代への情熱—シュリーマン自伝』 シュリーマン著・関 楠生訳 (新潮文庫)

幼い頃の夢を追い続け、トロイ遺跡を発掘した考古学者、ハインリヒ・シュリーマン。本書は、彼の生い立ちから発掘、そして晩年までを描いた自伝であり、私が歴史学を志す契機となった本です。

田本 滋己先生

推薦入試合格速報

1月20日・21日にセンター試験が終わり、今や私立大学入試、国公立二次試験に向けてラストスパートをかけている高校Ⅲ年生。そんな中で一足早くAO入試や推薦入試で将来の夢への第一歩を踏み出した生徒もいます。勉強や進路について模索している中学生や高校生のみなさんは、先輩たちのメッセージの中から、何か大きなヒントをつかめるのではないのでしょうか。

2007年度 入試大学合格状況 (AO・推薦入試)

[国公立大]		2007.1.12現在	
大学	学部	合格 男子	合格 女子
筑波大	人文文化学		1
広島大	文	1	1(1)
	総合科学		1
	工	1(1)	1
九州工大	情報工	1	
鹿児島大	理		1

[私立大学]		合格	
大学	学部	男子	女子
青山学院大	文	1	
中央大	商		1
東京理科大	理		1
日本大	生物資源科学	1	1(1)
明治大	理工	1	
北里大	理		1
東海大	文		1
立命館大	文	1	
	経営	1	
大阪芸大	音楽	1	
大阪工大	工		1
近畿大	薬	2	
神戸薬科大	薬	2	
川崎医療福祉大	医療福祉		1
安田女子大	薬		2
立命館アジア太平洋大	アジア太平洋		1

()は過年度生の内数



森谷 真紀
(Ⅲ年2組)

大学名 筑波大学
人文・文化学群
日本語・日本文化学類

志望動機

中2のニュージーランド交換留学で、現地の人に日本とはどんな国かを質問された際に、うまく返答することができなかったことをきっかけに、日本について広く学びたいと考えようになりました。筑波大学を志望し始めたのは中学3年の時で、他の学群・学類の授業も広く受講できることに特に魅力を感じました。

試験内容

小論文(1000字程度・90分)と面接

クラブなど学校生活で得たもの

辛いときに励まし合える仲間から得たものは大きいです。また、進路に関しても、合唱部に所属していたことが志望分野に関する言語について深く考えることに影響を与えてくれたと思います。



新藤 佳紀
(Ⅲ年2組)

大学名 立命館大学
文学部人文総合科学
インスティテュート学科
国際プログラム

志望動機

NGOなどの国際機関で働くことのできる人材の育成という方針に惹かれたから。

勉強方法

英語については、高校からの授業は完全に受験に向けたものとなっていくので、物語を読む機会の多い中学時代にいきなり英語を好きになれるかが鍵です。たくさん音読して、英語のもつ音の楽しさを味わって下さい。

後輩へのメッセージ

どの科目においても得意分野を作ることができれば試験中に絶対的な自信をもてるようになるので、自分の強みを増やせるように、日々の復習や定期考査の準備に取り組んで下さい。



中村 遼
(Ⅲ年3組)

大学名 明治大学
理工学部
機械工学科

志望動機

中学のころから理工学部に進みたいという希望を持っていました。明治大学は運動も盛んな大学で、明るい校風に惹かれました。なにより就職率のよさが大きな決め手となりました。

勉強方法

いきなり入試を想定しても実感がわかないので、身近な定期考査や模試を利用して、毎回目標を決めて勉強しました。

後輩へのメッセージ

勉強も大事ですが、勉強のために自分のやりたいことを我慢するのではなく、勉強との両立を頑張ってみて下さい。



加藤 友規
(Ⅲ年2組)

大学名 青山学院大学
文学部
史学科

勉強方法

私は授業を大切にすることをモットーとしてきました。当然、定期考査の前には試験勉強をしっかりし、よい点をとるようにながらばりました。その結果が推薦入試で勝負できる下地を作ったと思います。

クラブなど学校生活で得たもの

遅刻や欠席をせず、規則正しく生活することの大切さを学びました。

TOEIC® 960点!

高校Ⅲ年1組の倉持亜岐さんが、今年の10月にTOEIC®で960点という高得点を取りました。

TOEIC®について TOEIC®は「Test of English for International Communication」の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストで、現在世界約60カ国で実施されています。年間約450万人が受験しています。昨年度、日本国内では149万9,000人が受験しています。大学では、一定以上の得点を取れば、英語の単位認定や推薦入試に利用している大学もあります。また、企業でも海外出張や駐在の基準、昇進・昇格の要件として利用されています。

テストはリスニングとリーディングの2つのセクションで構成されています。それぞれ495点の990点満点です。皆さんに身近な英語検定で言うと、500点前後で英検2級、730点以上で準1級、890点以上で1級レベルに相当します。テストはほぼ毎月実施されていますが、だいたい15点から30点程度の得点アップが普通で倉持さんのように100点も得点がアップすることはめったにありません。彼女は留学で身に着けた英語力に加えて帰国してから熱心に英語に取り組んできました。それがこのような素晴らしい得点に結びついたのでと思います。皆さんも英語検定だけでなく、TOEFLやTOEICなどの検定試験にチャレンジしてみてください。

私は高1の9月から約一年間、アメリカに留学していました。帰国後は同級生と同じ高Ⅱに進級することができ、今は大学受験に向けて必死でがんばっています。帰国後の英語の勉強は、学校での授業を大切にしました。余暇にも、好きな洋書の読書や、映画鑑賞をしてできるだけ英語に触れるようにしました。私が初めてTOEICを受験したのは高Ⅱの冬で、母に勧められての挑戦でした。それからの約一年間は、受験勉強に沿って苦しい文法力を強化し、学校の英会話部で、留学中に身につけたリスニングのスキルを保つことに努めました。その甲斐があつてか、今年の10月に再度挑戦したTOEICで前回のスコアよりも100点も伸ばすことができました。TOEICには合格基準などは特になく、自分の英語能力の成長を目にすることができるので、みなさんもぜひ挑戦してみてください。

Ⅲ年1組 倉持 亜岐





迫本 宏美
(Ⅲ年5組)

大学名
東京理科大学
理学部第一部
応用化学科

志望動機

応用化学というのは全てに通じる学問で、医学から考古学に至るまで幅広い場面で必要とされています。この幅広い分野をもつ化学を通して、人々の生活がより安全になおかつ便利で豊かになるように、社会に貢献したいと考えたので志望しました。また、推薦を受けようと思ったのは高校Ⅲ年の9月でした。前から、推薦で早く合格すれば、その大学の学部に向けて集中的に自らの勉強ができると考えていました。

後輩へのメッセージ

大学受験とは自分との戦いです。心の強さがないと乗り越えられないと思います。高Ⅲになるとつらいと感じるかもしれませんが、乗り越えた先に待つ自分の夢に向かって頑張ってください。



亀谷 真斐子
(Ⅲ年2組)

大学名
中央大学
商学部
会計学科

志望動機

高Ⅱの頃から会計に興味を持ちはじめ、経理研究所のある中央大学に魅力を感じたため。

試験内容

「日本の税制度について」をテーマとするグループディスカッション

後輩へのメッセージ

定期考査は推薦入試につながるチャンスでもあります。「あの時もっとしておけばよかった」とならないように頑張ってください。



三好 紗代
(Ⅲ年5組)

大学名
鹿児島大学
理学部
物理科学学科

志望動機

天文学に関心があり、中3の秋ごろには進路として決めていました。まだ知らないことがたくさんあったので、本や雑誌を読んでさらに関心を深めていきました。また、謎の多いこの分野に挑戦したいと思ったからです。

試験内容

適性実技(基本的な実験とレポート)・面接(実技で書いたレポートと事前に送った書類に基づいて)

勉強方法

AO入試は、高Ⅲから準備しても難しいと思います。早い段階で進路を決め、かつ志望大学にAO・推薦入試があるところなら、ぜひ受験した方が良いでしょう。そのためには自分がやりたいことの知識を増やすこと(例えば本を読むなど)はもちろん、広い視野で物事に取り組むことや教養を積むなどの気持ちも大事ではないかと思っています。



中尾 吉希
(Ⅲ年5組)

大学名
九州工業大学
情報工学部
生命情報工学科

志望動機

将来、遺伝子を利用して不治の病の治療法や治療薬を開発したかったので、それには遺伝子を扱う生命工学と遺伝子の操作や解析に必要な情報工学を学ぶことが必要。その両方ともを学ぶことができる生命情報工学に、高Ⅲの初めごろから興味を持ちました。

試験内容

面接では、生命情報工学科についてどんなことを知っているか、プログラムを作ったことはあるか、情報Bという教科があるがAとどう違うのか、などが問われた。英語は、バルセロナについての英文を読み、面接室で音読し、設問に答える。

後輩へのメッセージ

「継続は力なり」です。一回あたりの量は少なくとも毎日続けていけば力はつきます。



古月 綾香
(Ⅲ年3組)

大学名
広島大学
工学部第二類
(電気・電子・システム・情報系)

志望動機

両親がともに広大を卒業しているので、小学生の頃から何となく頭にはありました。工学部に決めたのは、将来ゲーム業界で働きたいという思いからです。また、広大の工学部は最先端の研究を行っていることも志望理由の一つです。

試験内容

小論文・面接・口頭試問(数学・物理各1問)

クラブなど学校生活で得たもの

物事をやり遂げる力だと思います。美術部で、高Ⅱのときには油絵を約半年かけて描き上げました。もともと物事をやり遂げることがあまり得意ではありませんでしたが、このことで自信ができました。

後輩へのメッセージ

勉強をさぼると後々倍になって返ってきますから、勉強から逃げないようにしましょう。苦手科目でも嫌というぐらいやってみれば、それなりにできるようになります。私は物理が苦手でしたが、先生にたくさん質問した結果、模試の偏差値がかなり上がりました。



隅田 三保子
(Ⅲ年1組)

大学名
広島大学
総合科学部
総合科学科

志望動機

もともと英語や異文化に興味があり、本校のイギリスの研修旅行で実際に他の海外から来た生徒たちとともに授業を受け、会話などをし、ますます興味を持つようになりました。高Ⅲの夏、この学部のオープンキャンパスに行ったときに、大学2年で世界の地域や言語を詳しく学べるプログラムがあることを知り、志望しました。

試験内容

講義を30分聴き、小論文を書く。面接。

後輩へのメッセージ

中学校・高校生活で何か一つ、部活や勉強など継続できるものを見つけて下さい。それが今後、強みになると思います。



門江 春香
(Ⅲ年5組)

大学名
北里大学
理学部
生物科学科

志望動機

たった一つの細胞から、私たちのような生き物が誕生するという過程に興味を持ったので、この大学で再生医療について学びたいと思いました。

試験内容

医学に関する英文を読み、それぞれの問いに180字以内で答える。面接。

クラブなど学校生活で得たもの

ニュージーランド交換留学やマレーシア研修旅行などの、この学校でしか体験できないことに積極的に関わることにより、より広い視野を持つことができた。

後輩へのメッセージ

学問も大切ですが、人間性も大切にできる人になって下さい。

CLUB NEWS

中学サッカー部

- 平成18年度広島市中学校新人サッカー大会(佐伯区大会)
日時:平成18年10月29日(日)・11月3日(金)～4日(土)
成績:予選リーグ 第3位 市大会出場
- 平成18年度広島市中学校新人サッカー大会(広島市大会)
日時:平成18年11月11日(土)・18日(土) 成績:ベスト16

中学卓球部

- 平成18年度広島市中学校卓球新人大会(男子佐伯区大会)
日時:平成18年12月16日(土)
成績:個人戦 山本祥士(1-4)・中村啓介(2-4)
ベスト16 市大会出場
- 団体戦 Aリーグ 第3位 市大会出場 Bリーグ 第3位